

■第2回懇談会 委員意見概要

【参考資料1】

	意見概要	反映資料
稲庭委員	「資料1」で整理された機能は、開館当時の考え方から大きく変わったように見えない。現在は「市民とのシェア」や「市民参加型」の視点が重要ではないか。「地域貢献」という言葉は「市民参加」とは逆のベクトルの言葉。また、アーティストと連携した展示作りをしてはどうか。 「まちなかミュージアム」の運営は、専任のマネジメント担当が必要で「ことラー」だけで運営することは難しい。具体的な活動イメージと対応する人員を検討する必要がある。	資料②に反映
佐藤委員	「資料1」の「教育普及」機能でまちなかでのアウトリーチ（学校へ出向くなど）だけでなく、拠点施設の方に来てもらうことも必要なので加えた方がよい。 「資料2」の参考データについて、今のままでは事実が示されたのみのものもある。今後の分析により、このような結果になった理由を明らかにして、新たなミュージアムの運営に活かせると良い。 「まちなかミュージアム」では各地域の地域課題にどう対応できるか、地域ごとに個別の課題を具体的に検討しても良いのでは。	資料②に反映
八木橋委員	- 歴史分野では近現代資料の収集は非常に重要なので、力を入れて欲しい。現代専門の学芸員の補充も必要ではないか。 - 被災資料の修復だけでなく、その保管方法についても再検討すべきである。特にデータの保管については、基本的な事業として推進して欲しい。また、デジタルアーカイブの活動は処分対象の収蔵品が否かを問わず、可能な限り積極的に実施していくべき。 - 生田緑地を文化活動エリアとして、アピールすることが重要。今からでも各館の連携含めて検討を開始すべきである。	資料②に反映
藤野委員 (公募市民)	- 生田緑地は文化施設が集積しているので、上野のような文化集積エリアを目指せると考える。 - 若者は、博物館・美術館等へ行った人の口コミやSNSの投稿に影響されやすいので、若者をターゲットに動画や写真を撮りたくなるようなプログラムがあると集客につながるのでは。 - 小中学校への出張プログラムの中で拠点施設に来てもらえるような取組があると良い。小中学校へ出張プログラムは開館後も継続されると良い。	資料②に反映
垣内委員 (会議後個別ヒアリング)	- 収蔵品収集の基準を明確化することを検討してもらいたい。価値のあるもの（希少価値を含む）に限定すべきと思う。例えば漫画であれば、原画や一品物の関連資料に絞るなど、コレクションの在り方をより詳細に検討したほうがよいのではないだろうか。 - まちなかミュージアムは川崎市の文化施設・専門家との連携を最大限活用する方向で検討してはどうか。開館に向けた中間段階でのソフト事業を実施する中で、各事業を検証しながら、現実的な役割分担が見えてくると思う。 - 修復は必須の事業でもあり、市民の関心をつなぎとめる必要もある。興味関心のある人々を、ボランティアとして組織化、専門性を高め、自走化する方向をぜひ検討してもらいたい。	資料②に反映
田中委員 (会議後個別ヒアリング)	「資料1」で整理された機能で、近年海外のミュージアムに見られるクリエイティブな教育を提供する機能は今後重要になるのではないか。特に子ども向けの諸室が増えていて、ファミリーでミュージアムを利用している姿をよく見るようになった。 「資料2」の近現代の資料について、川崎市は近代の工業化と密接に結びついているところが、学びの素材としてもおもしろいと思っている。その中で公害を克服してきた歴史がある。それは川崎の子どもにとっても重要な学びの素材になるのではないかと思う。 - 拠点とまちなかの整理は「資料3」の考え方で良いと思う。「市民のところにアウト」というミュージアム主体の考え方ではなく、コミュニティエンゲージメントなどの考え方が重要になっているのでは。	資料②に反映
金子委員 (会議後個別ヒアリング)	- 美術館は収集方針を決めないで無制限になってしまう。川崎市の市民ミュージアムとして特徴、責任をもって収集していく分野は何かを考える必要がある。 - 拠点は生田緑地内の他の施設とどう連携していくかが重要。まちなかミュージアムは、具体的なイメージがないと意見しにくいので、示してほしい。 - 地域貢献は観光事業のキーワードが入っているが、他地域や市外から来た人を対象にするということだけでなく、市民自身の文化力を高める部分での地域貢献もあるのではないか。	資料②に反映